

湯元清文教授 (1951-2019): 伝説をつくられた方のご世界

国際太陽観測年、アフリカ地域
スクール (AFRIS) で指導中の
湯元教授

2008年11月、ナイジェリア、
エヌグにて



2019年10月7日、日本時間午前6時21分、湯元清文教授がご永眠され、人類と科学に捧げられた一生に幕を閉じられました。先生が生涯のうちに成し遂げたご功績の重みは計り知れず、また、先生は科学を人と分かち合うことを忘れることがありませんでした。私も含め、たくさんの人々の生き方に影響を与えたその偉大なる方であっても、避けることはできない死をお迎えになったという重たい知らせを、私はショックでなかなか受け入れることができませんでした。

先生は、宇宙天気科学と電離層の研究一般において模範的な献身をなさいました。先生は世界の果てまで各地を旅し、先生が生きがいとされていた科学のメッセージを人々に伝えられました。先生は良きチームプレーヤーでした。先生は自らの本能に誠実であって、開拓者として最先端を切り開く意味を信じ、それにより2006年から2012年の間にアフリカにあの有名な96度磁気子午線・赤道チェーンを設置されました。これは、先生が名古屋大学在職中に環太平洋磁力計ネットワークの設置で大きな成功を収めた後に続く新たな功績でした。全て含めると、先生は充実したキャリアのあいだに70以上の磁力計を世界中に設置したことになります。

湯元先生は、国連の後援を受けた国際太陽観測年プログラム(2005~2009)の下で、国内外の科学者の中からまさに先駆けて、磁力データ取得システム(Magnetic Data Acquisition System; MAGDAS)として知られる地上観測機器のネットワークを設置されました。2006年時点では、アフリカでの機器設置を阻もうとする様々な問題が山積していました。湯元先生は否定的な報告をすべて退け、立ちほだかる難題に立ち向かい、最終的にナイジェリア、コートジボワール、エジプト、スーダン、エチオピア、ケニア、モザンビーク、ザンビア、そして南アフリカでの磁力計設置に漕ぎ着けられました。先生はさらに、2011年にナイジェリアで、アフリカで最初となるMAGDAS設営技術養成学校を設立し、その後同じ

ような養成学校をインドネシアとコートジボワールにも開設しました。先生の並大抵ならぬ科学の発展への貢献は、アフリカ諸国、そして世界の宇宙天気研究の在り方を大きく変えたのでした。

先生は万事の計画者であり、信頼のおける相談相手であり、一流のリーダーであり、そして卓越した科学者でありました。先生はアフリカ宇宙地球系物理学会（African Geophysical Society; AGS）の創設に関わった特別研究員の一人でした。注目すべきことは、この AGS の最初の憲章は、私がサバティカル（研究休暇）中であった 2008 年に、湯元教授が、九州大学宙空環境研究センターに客員教授として招いて下さった時に私が草案したものです。先生は知識の共有・伝達にとっても積極的でした。先生は科学界における巨人で、今日私たちが胸を張り、自信を持って立っていけるように肩を貸してくれました。残念ながら先生は私たちの間から旅立ってしまわれましたが、先生が影響をお与えになったすべての人々の心の中で永遠に生き続けられます。たとえこの世の命に終わりがあったとしても、先生の精神は尽きることがなく、湯元清文という人物は私たちの心の中に永遠に生き続けられるのです。

今振り返りますと、先生の生き方に私たちは学ぶべきことがたくさんあります。先生は良い教えを残されました。先生の残されたものは末永く大事にされ、湯元先生の名は、科学界の文献や学会の中で称え続けられることでしょう。

アデゥー（フランス語でさようなら）ユモト センセイ

ババテュンデ・ラビュウ教授より。ナイジェリア、アニグバにあるコギ州立大学キャンパス、国立宇宙研究・開発部局、大気研究センターから。

和訳：前田あいな 2019 年 11 月 18 日

Boston, MA, USA

